

# ニュージージーランドで得たのは 英語力だけじゃない。

2014年度の海外研修は18日間にわたりA、B、Cの3コースに別れ、ニュージージーランドでおこなわれた。Aコースは8月23日から9月9日までオークランド、アルバニーで、BとCコースは8月26日から9月12日まで、それぞれパーマーストونسとウェリントンに滞在した。(文: 綿引桃花・石原健太郎)

Aコースはマス・コミュニケーション学科、経営社会学科の30人。初めての海外という人もいて、機内食を配るCAさんの英語に戸惑っている学生もいた。

空港から出ると、オークランドの朝はひんやりとカラッとした空気。真っ青な空、輝く太陽が私たちを出迎えた。マッセイ大学到着後、全体のオリエンテーションが行われ、休み時間になると、どんな夕飯だったかなどホストファミリーの対面。誰かについて話題はつきない。



英語のクラスは10人ずつ。自己紹介からホームステイ先で使える実用的な英会話などを学んだ。DEREK Shall Overcome という歌を毎回歌い、楽しくジェスチャー付きで学んだ。Marinna クラスはゲームを交

えて様々なシチュエーションでの英会話を学んだ。「先生がひとりひとりの名前を覚えようとしてくださって、いたことがうれしかった」とマスコミ学科横澤実さんとマスコミ学科横澤実さん。

休日にはホストファミリーと出かけたたり、友達と様々なお土産屋さんやダウンタウンへ行ったりと楽しんだ。日曜日には教会へ行った人も多くいた。日本の教会とは違い、まるでアーティストのコンサートのような印象を受けた。聖書を読むわけではなく、バンドの生演奏と歌で祈りを捧げている。

海の近くでは市場がたち、手作りのパンやジャム、新鮮なオイスター、卵などが販売されていた。日本で



マスコミ学科坂井建太さんはダンスが得意で、ハイスクールミュージカルの振付をし、短期間で練習を完成させた。同学科中山貴智さんは、『カントリード』と『旅立ちの日』の



了時のセレモニーに向けてのダンスや歌の練習もはじまった。

2週目からは徐々にニュージージーランドの生活にも慣れてきて、英語力も上がったように思えた。自由研修時には近所のショッピングセンターへ行くことも多くなった。お目当てはホーキー・ボーキー。NZで有名なアイスだ。研修終了に幻想的だった。

宿では自炊をした。料理の得意な人が中心となり、カレーやシチューをつくった。テラスでは、パークューと温水プールを楽しんだ。

9月8日はセレモニー。スーツを身にまとい、ホストファミリーともども新鮮な気持ちになった。各担当の先生から卒業証書をいただき、ハグや握手を交わした。その後は、毎日授業後練習していた劇や歌を英語で披露した。研修の成果で英語にも慣れてきた。

NZ研修Aコースのリーダーを務めたマスコミ学科岩井千明さんは、「研修で知り合った人が多く、最初はそのようにコミュニケーションをとったらいのかわる部分がありました」という。「どうしたらみんなが楽しくできるか意識していました」

帰国後は挨拶をしたり会話をしたりする友達も増えた。英語力にすこし自信ができたのはもちろんだが、それと同時にさまざまな体験とおして仲間との絆も生まれた。得たものは、語学力だけではなく、